

野外活動

(3) 昭和61年2月20日(木)第80号

野外活動

編集人 深野和彦
 発行人 森田勇造
 相携法人 青少年交友協会
 東京都千代田区麹町1-5
 第7麹町ビル5F 〒102
 TEL. 03 (262) 747100
 定価 1部200円
 振替 東京3-75288



美しい日本語

木田 宏

(日本学術振興会理事)



最もよく日本の文化を説明し、日本人の特質を伝えるものは何か、と問われれば、私は、躊躇することなく、それは日本語であると答えたい。われわれは、日本語によって育つてきた、日本語によって感情や思考を深め、自己の行為能力を養ってきた。その日本人の生み出したもの総てが日本の文化を形成するのであるから、日本語が日本文化を生み出したのであり、日本語こそが日本文化であると言えるだろう。このように、言葉が文化だと言えは、世界の民族総てに共通で、同義語反復ではないかと言われるかもしれない。たしかに、どの民族もその固有の母語を持ち、母語によって育つてくる。しかし多くの場合、人々はその上に標準語を身につけ、さらに国際語を学んで、二重、三重の言語生活をもっている。開発途上国や以前植民地であった所では、殊のほか、そうである。しかし、我々は幸いなことに、母語と標準語が極めて近似した日本語の中で成長し、生活する。今日では、母語そのものと言うべき日本語のみで、知識を身につけ、情感を磨き、殆どすべての用を足すことができる。われわれの祖先が編み出した

大和言葉は、その文脈の中に、中国文明を築いた漢字と漢語を取り入れても、その基本を失うことがなかった。その上、漢字を借用して音を表わす仮名文字を二通りも作り、この仮名と漢字を交えた文章によって、日本語の本質を保持しながら、その質量を著しく充実させることができた。われわれは、先祖のこの努力によって、人類の蓄積してきた知識を十分に吸収し、今日の発展を築きえたのである。このように日本語は強靱な弾力性を有している。また、豊かにして繊細な情感を表わすことのできる美しい響きをも持っている。和歌、俳句その他の詩歌が、市民生活の美意識を培っていることは、誰しも首肯するところであろう。

この意味において、日本語は日本文化の精髓であり、日本人の思考そのものであると思うのである。われわれは、この日本語を使い育てることによって、より美しい、充実した内容のものに発展させなければならない。日本語を大事にする。即ち、日本語を正しく美しく使い、それを充実発展させることこそ、日本の真価を発揮するゆえにあると思うのである。